



令和元年度第1回 総合教育会議

日時 2019年8月21日(水) 午後1時30分

場所 本庁舎3階 会議室3-3

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 議事録署名人の決定
- 4 議事
 - (1) 子どもたちの学びについて
～調査結果から把握した現状～
 - (2) その他
- 5 閉会

出席者名簿（敬称略）

教育長	平 岩 多 恵 子
教育委員会委員	大 津 邦 彦
	中 林 奈 美 子
	飯 島 広 美
	木 原 明 子
市 長	鈴 木 恒 夫

関係職員	教育次長	須 田 泉
	教育部長	松 原 保
	教育総務課長	佐 藤 繁
	教育総務課主幹	須 藤 和 久
	教育総務課指導課長	窪 島 義 浩
	教育指導課主幹	坪 谷 麻 貴
	子育て企画課長	川 口 浩 平
	子育て企画課主幹	吉 原 玲 子
	地域包括ケアシステム 推進室長	玉 井 知 門
	地域包括ケアシステム 推進室室長補佐	越 川 正 興

事務局	企画政策部長	関 口 隆 峰
	企画政策課長	佐 保 田 俊 英
	企画政策課主幹	諏 訪 間 光
	企画政策課主幹	水 野 郷 史

令和元年度第1回総合教育会議席次

水野主幹	諏訪間主幹	佐保田参事	関口部長
------	-------	-------	------

(事務局)

プロジェクター

演台

飯島委員	中林委員	鈴木市長
木原委員	大津委員	平岩教育長

坪谷主幹	窪島課長	須藤主幹	佐藤参事	松原部長	須田次長
------	------	------	------	------	------

(関係部課)

越川室長補佐	玉井室長	吉原主幹	川口参事
--------	------	------	------

出入口



藤沢市総合教育会議



平成30年 藤沢市子どもと子育て家庭の 生活実態調査の概要

～ 調査結果から把握した現状 ～

2019年8月21日

目次

1. 調査の背景
2. 実態調査の概要
3. 実態調査結果から把握した現状

1. 調査の背景

～子供の貧困対策の大綱の施行以降の 国等の関連政策の動向～

- 持続可能な開発目標(SDGs)

- 子どもの貧困対策推進法の改正

- 教育機会均等法、社会教育法改正、第3期教育振興基本計画

- 文部科学省「Society5.0」に向けた人材育成

- 経済財政運営と改革の基本方針2019(骨太の方針)
～『令和』新時代:『Society 5.0』への挑戦～

- 経済産業省「未来の教室ビジョン」

検
討
中

- 文部科学省「新しい時代の初等中等教育の在り方特別部会」

- 内閣府「子供の貧困対策に関する大綱」

持続可能な開発目標 (SDGs)

- 2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2030年までの国際目標
- 日本では2016年12月に実施指針を決定
- 誰一人取り残さない (leave no one behind)
包摂的な未来を目指す

子どもの貧困対策の推進に関する法律の改正

- 令和元年6月に公布
- 市町村による貧困対策計画の策定努力義務
- 目的・基本理念の充実
 - 子どもの将来だけでなく、現在に向けた対策
 - 「貧困の状態にある子ども」から **すべての子ども** へ
 - 児童権利条約の精神にのっとり推進
 - 社会のあらゆる分野において、子どもの年齢等に応じて、意見が尊重され、最善の利益を優先考慮

文部科学省 「Society5.0」に向けた人材育成 ～社会が変わる、学びが変わる～

今後取り組むべき教育政策の方向性(2018年6月)

①公正に個別最適化された学び

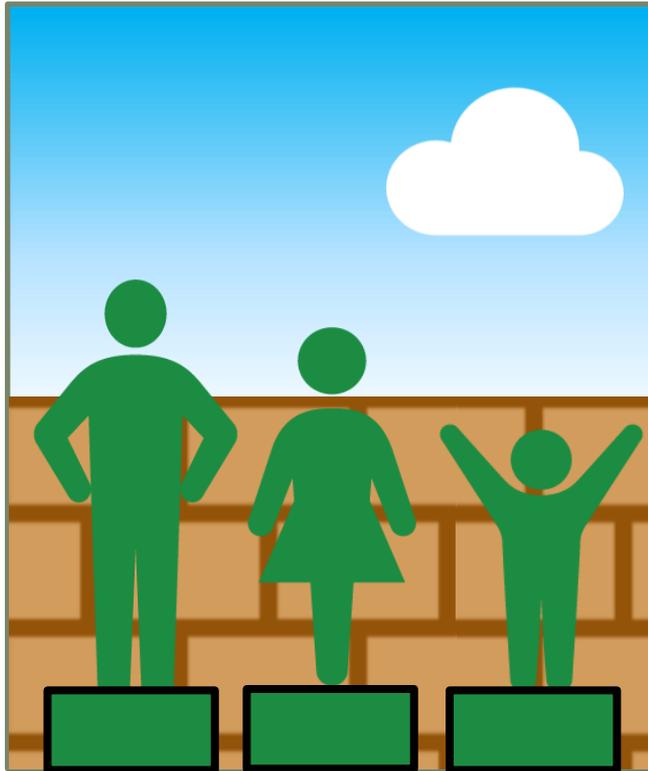
すべての子供たちがすべての学校段階において、基盤的な学力の確実な定着と、他者と協働しつつ自ら考え抜く自立した学びを実現できるよう「公正に個別最適化された学び」を実現する多様な学習機会と場の提供をはかることが必要である

②基盤的な学力や情報活用能力の習得

③大学等における分離分断からの脱却

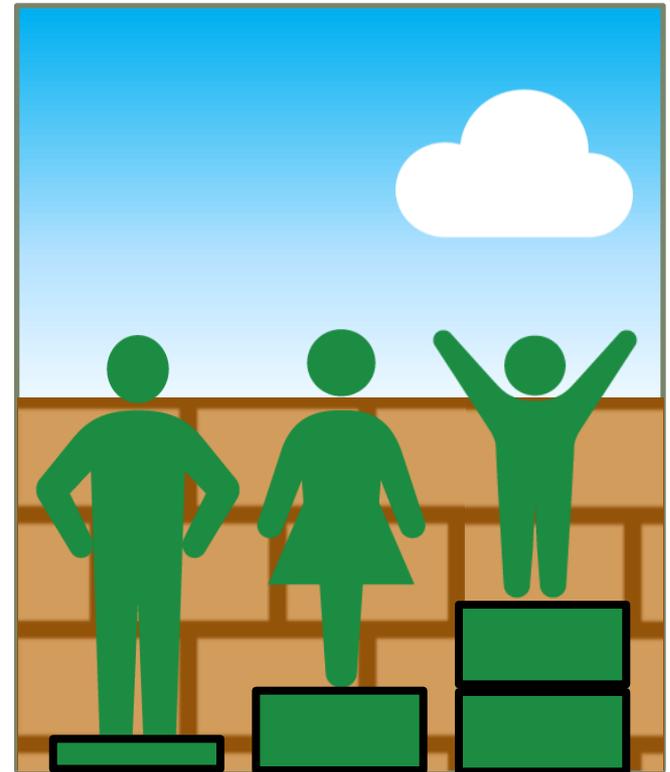
「平等」と「公正」の違い

平等 (Equality)



それぞれの状況を鑑みず、全員に対して同じ待遇。壁の向こう側の景色を見ることができない取り残された子どもがいる

公正 (Equity)



子どもの置かれた状況に応じて待遇を変えることで、すべての子どもが壁の向こう側の景色を見ることができる

2. 実態調査の概要

- アンケート調査

(5歳児、小学5年生、中学2年生)

- ヒアリング調査

(市内関連機関32団体、44の個別ケース分析
支援者50名以上へのヒアリング)

2. 実態調査の概要 — アンケート調査

- 調査内容 子どもの生活や学び、保護者の暮らしや子育ての悩み等の様々な観点から生活実態を調査
- 実施時期 2018年9下旬～10月中旬
- 実施方法 5歳児保護者は郵送配布・郵送回収し、小学校・中学校は学校を經由して配布し、郵送で回収
- 調査対象・回収状況

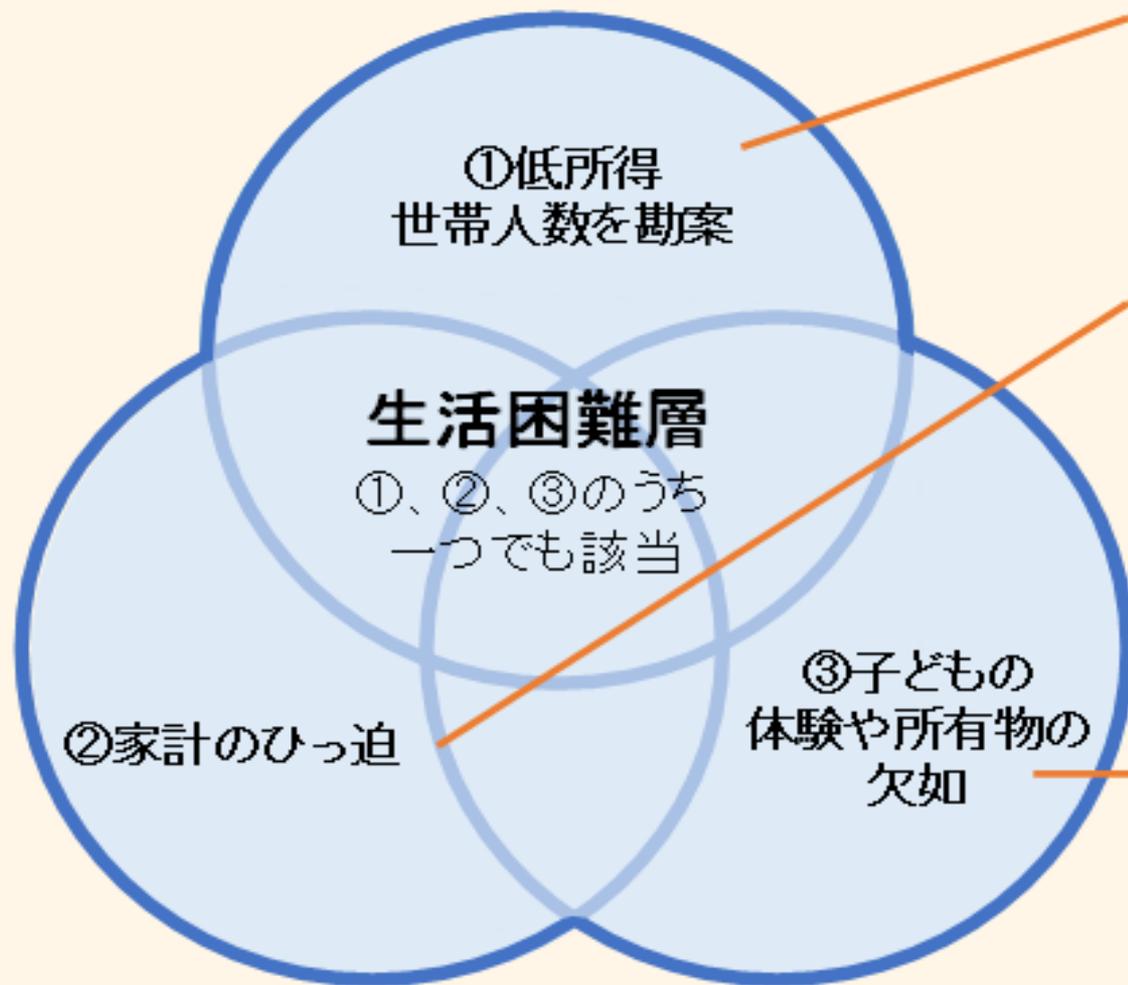
調査対象	対象者数	回収状況(保護者票)
市内5歳児の保護者	3,845世帯	2,457件(63.9%)
市立小学校の小学5年生と保護者	3,957世帯	1,602件(40.5%)
市立中学校の中学2年生と保護者	3,600世帯	1,076件(29.9%)

2. 実態調査の概要 — アンケート分析

- アンケート調査結果は、様々な困難を抱えると思われる子どもを以下の3つの視点から分析
 - 1. **経済的な生活困窮の視点** …… 経済的困窮が子どもの育ちや家庭に及ぼす影響とは、気付くためのシグナルとは
 - 2. **ひとり親世帯の視点** …… 世帯に大人が一人のひとり親世帯(2世代同居)の子どもや世帯が抱える課題とは
 - 3. **養育困難の視点** …… 児童虐待など子育てに課題を抱えるリスクが高いグループの子どもや世帯に気付くためのシグナルとは、どのような課題を抱える傾向にあるのか

経済的な生活困窮の視点

一般層(①、②、③のどれにも該当しない層)



ひとり親世帯の視点

		宛名のお子さんの同居者 小学校5年生保護者票・中学校2年生保護者票 問2-4 5歳児保護者票 問3-4	
		「祖母」もしくは「祖父」を選択	「祖母」「祖父」いずれも選択せず
回答者の現在の 婚姻状況 小学校5年生保護者票・ 中学校2年生保護者票 問19 5歳児保護者票 問26	次のいずれかを選択 「離婚（別居中を含む）」 「死別」 「未婚・非婚」	ひとり親世帯 (3世代同居)	ひとり親世帯 (2世代同居)
	それ以外	ふたり親世帯 (3世代同居)	ふたり親世帯 (2世代同居)

養育困難の視点

要素	設問番号		設問項目	要素該当条件となる設問への回答状況
	5歳保	小中保		
①子どもの養育状況 【該当条件】 ⇒右の2条件のうち、 <u>1つ以上に該当した場合</u>	24	17	子育てに関する心配ごと・悩みごと	次のいずれかに○ 「子どもの非行や問題行動」 「子どもが不登校である」 「子どもとのコミュニケーションが取れていない」 「子育てが楽しいと思えない」
	44	37	子どもが生まれてからの経験	次のいずれかに○ 「(元)配偶者(またはパートナー)から暴力をふるわれたことがある」 「子どもに行き過ぎた体罰を与えたことがある」 「育児放棄になった時期がある」
②保護者の状況 【該当条件】 ⇒右の4条件のうち、 <u>2つ以上に該当した場合</u>	29	22	うつ傾向	「絶望的だと感じましたか」について「いつも」「たいてい」に○
	30	23	保護者を支え手伝ってくれる人	「心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人」が、「いない」に○
	43	36	成人前の体験	次のいずれかに○ 「親などの親族から暴力を振るわれた」 「育児放棄(ネグレクト)された」
	44	37	子どもが生まれてからの経験	次のいずれかに○ 「出産や育児でうつ病(状態)になった時期がある」 「わが子を虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある」 「自殺を考えたことがある」
③世帯の状況 【該当条件】 ⇒右の4条件のうち、 <u>1つ以上に該当した場合</u>	3-2	2-2	ダブルケア	「お子さんと同居しているご家族に、介護または介助の必要な方がいますか」で、「いる」に○
	3-3	2-3	世帯の子どもの人数	「子どもの人数は何人ですか」に、「4」人以上と回答
	14-1	9-1	子どもの発達に関する診断	次のいずれかに○ 「身体障がい」「知的な遅れ」「発達障がい」
	26	19	保護者の婚姻状況(ひとり親)	次のいずれかに○ 「離婚(別居中を含む)」「死別」「未婚・非婚」

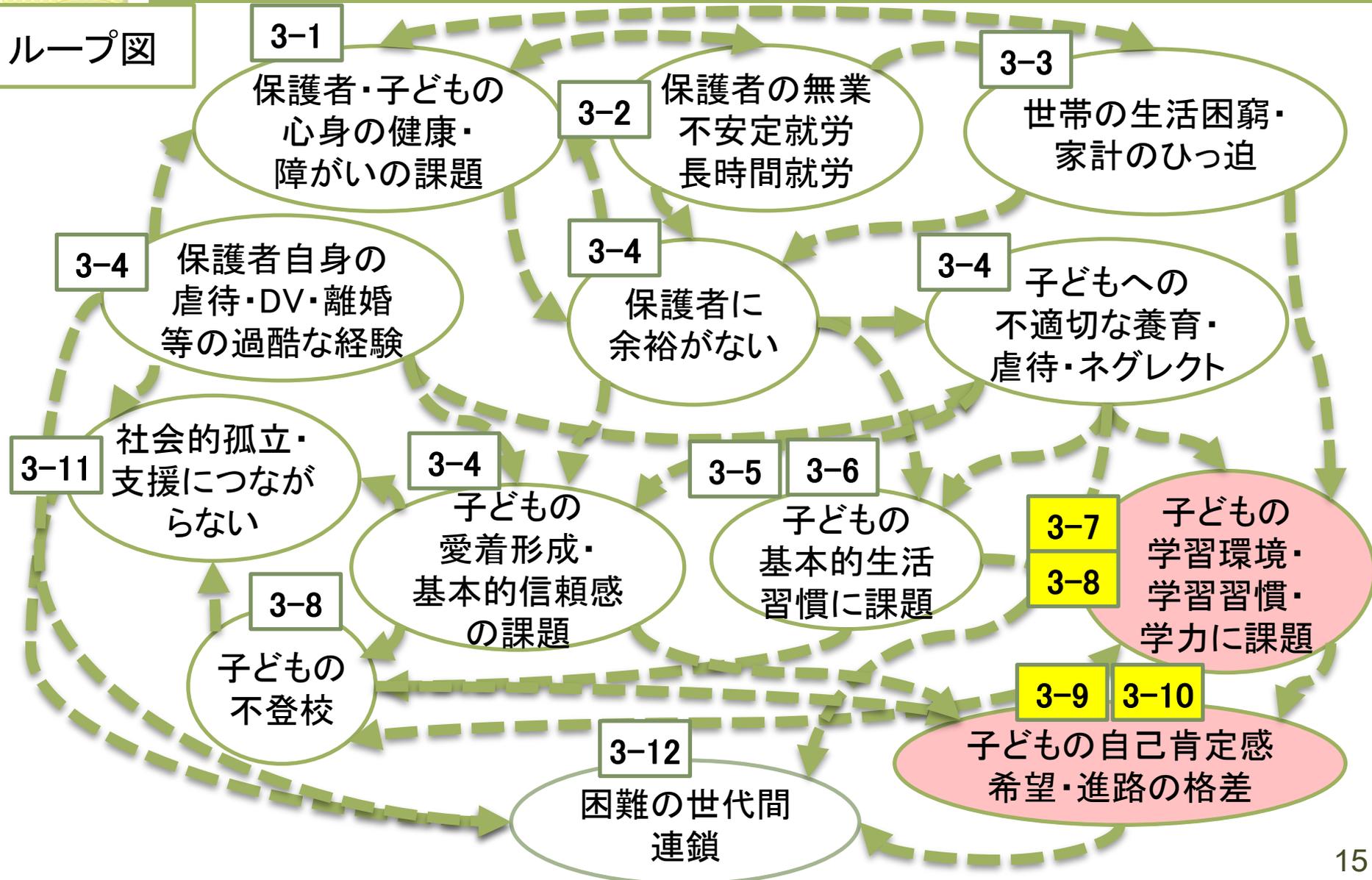
3. 調査結果から把握した課題

現状と課題の概要

- 3-1 保護者・子どもの心身の健康
- 3-2 保護者の就労状況
- 3-3 家計のひっ迫と子どもへの影響
- 3-4 親と子の愛着関係・基本的信頼感
- 3-5 子どもの基本的な生活習慣
- 3-6 子どもの居場所
- 3-7 子どもの学習環境と学習習慣
- 3-8 学力・学校生活・不登校
- 3-9 子どもの進路・将来展望
- 3-10 子どもの自己肯定感
- 3-11 社会的孤立・支援につながらない
- 3-12 困難の世代間連鎖

3 調査結果から把握した課題

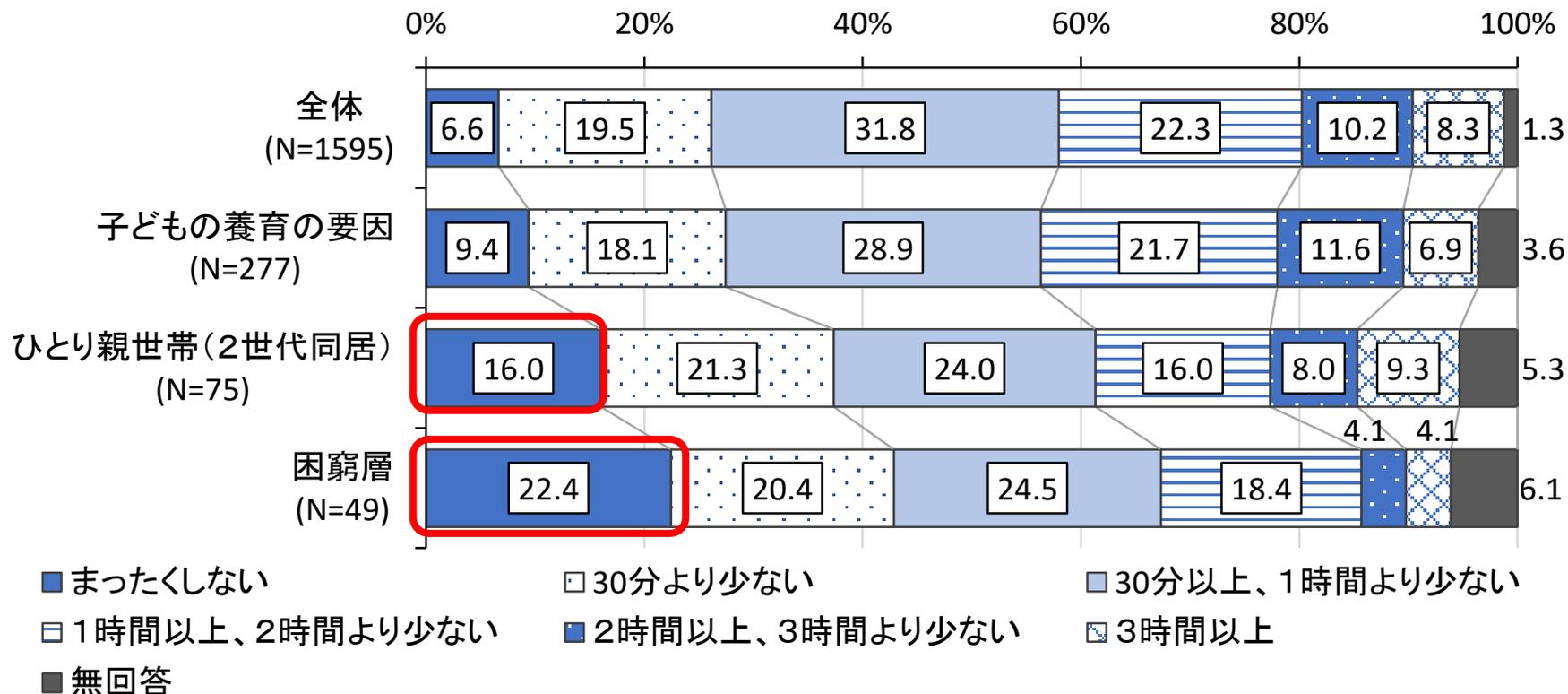
ループ図



3-7 学習環境と学習習慣



学校の授業以外の平日の勉強時間(小学5年生)

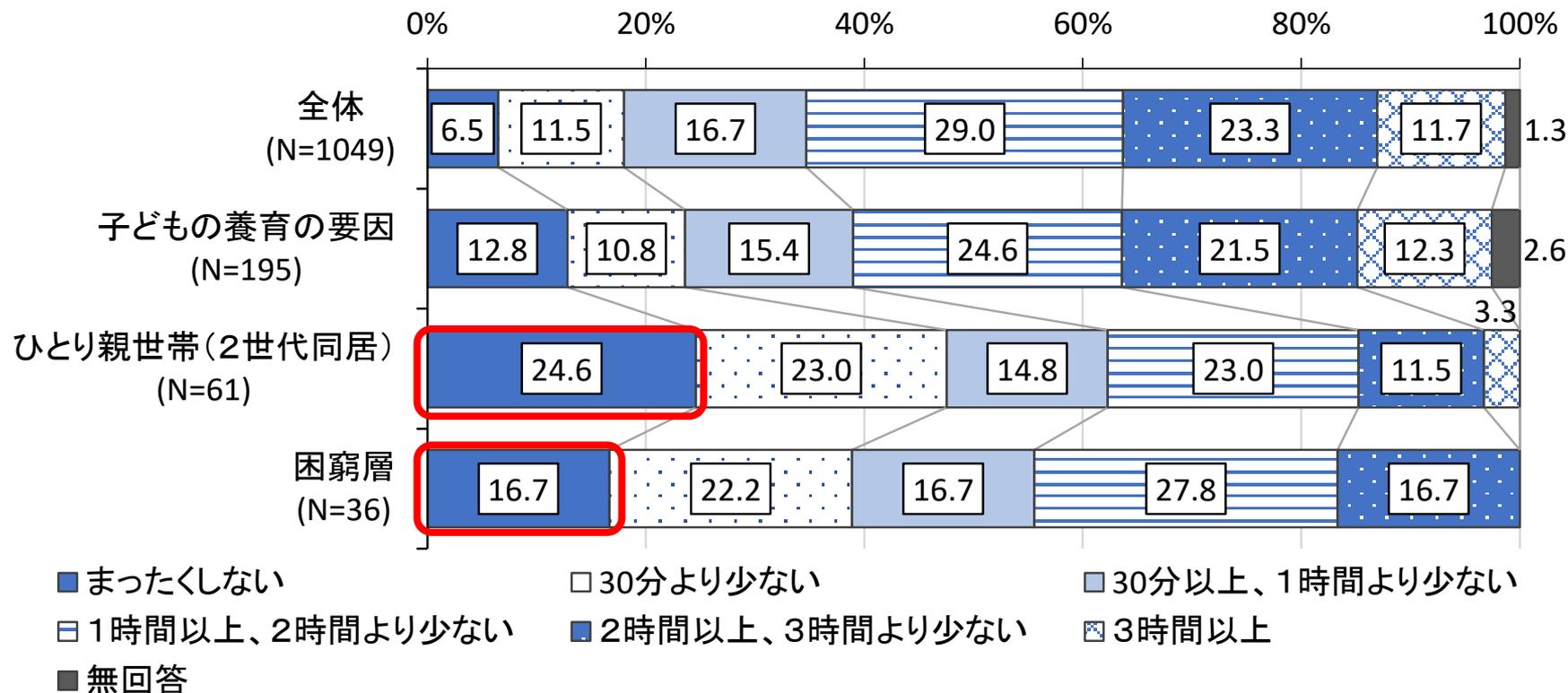


- 平日に学校の授業以外でまったく勉強をしないと回答した小学5年生の割合は、ひとり親世帯(2世代同居)や困窮層で約2割

3-7 学習環境と学習習慣



学校の授業以外の平日の勉強時間(中学2年生)

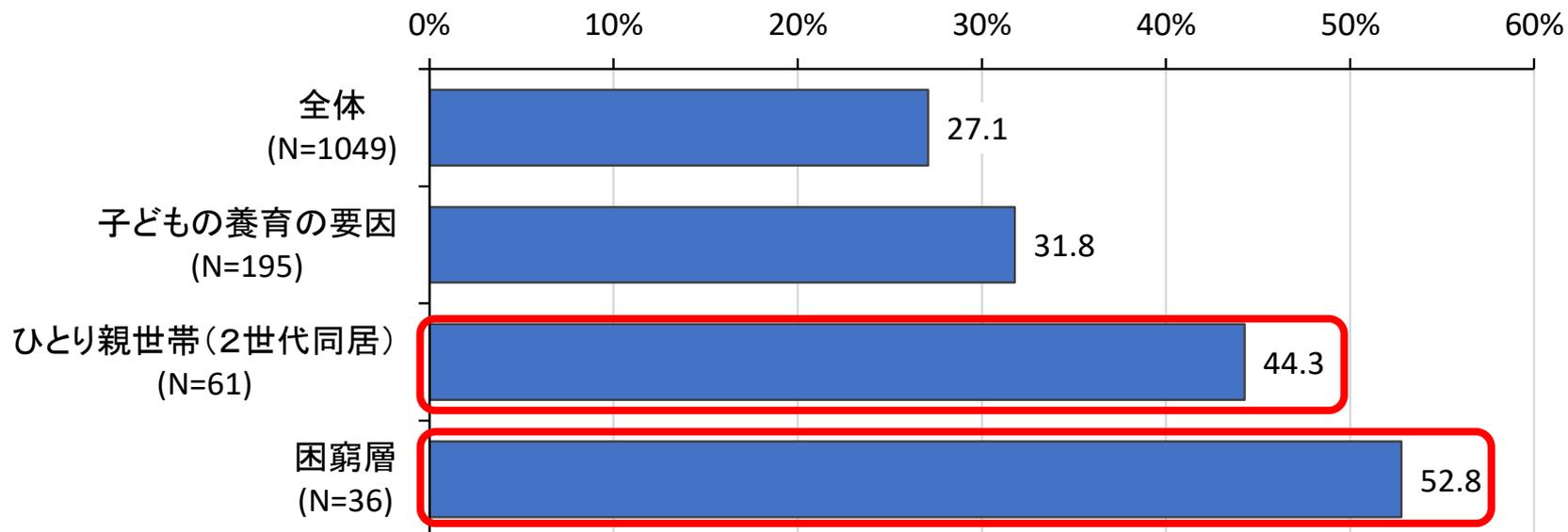


- 平日に学校の授業以外でまったく勉強をしないと回答した中学2年生の割合は、ひとり親世帯(2世代同居)や困窮層の約2割

3-7 学習環境と学習習慣



学習塾(家庭教師含む)に通っていない割合(中学2年生)

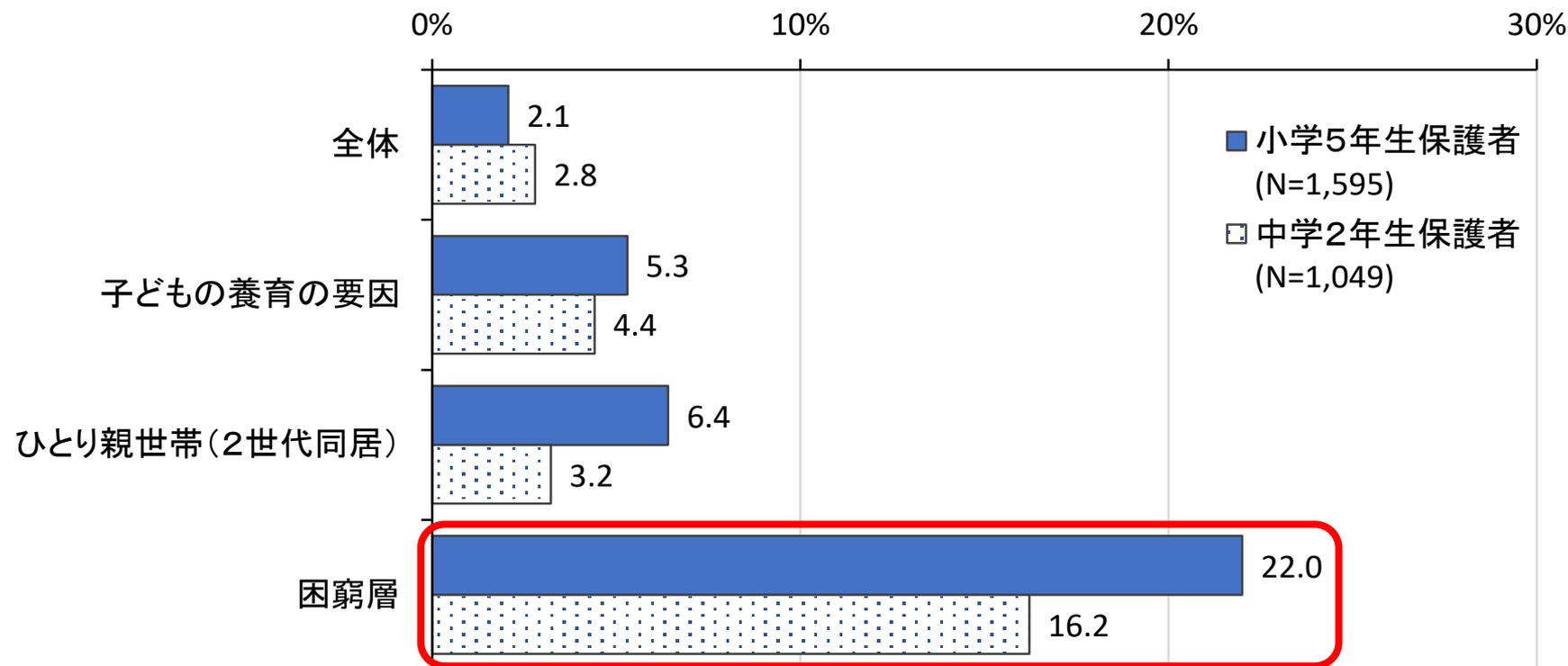


- 困窮層に該当する中学2年生の半数以上は、学習塾(家庭教師含む)に通っていない

3-7 学習環境と学習習慣



経済的理由で、子どもが自宅で学習をすることができる場所がない割合

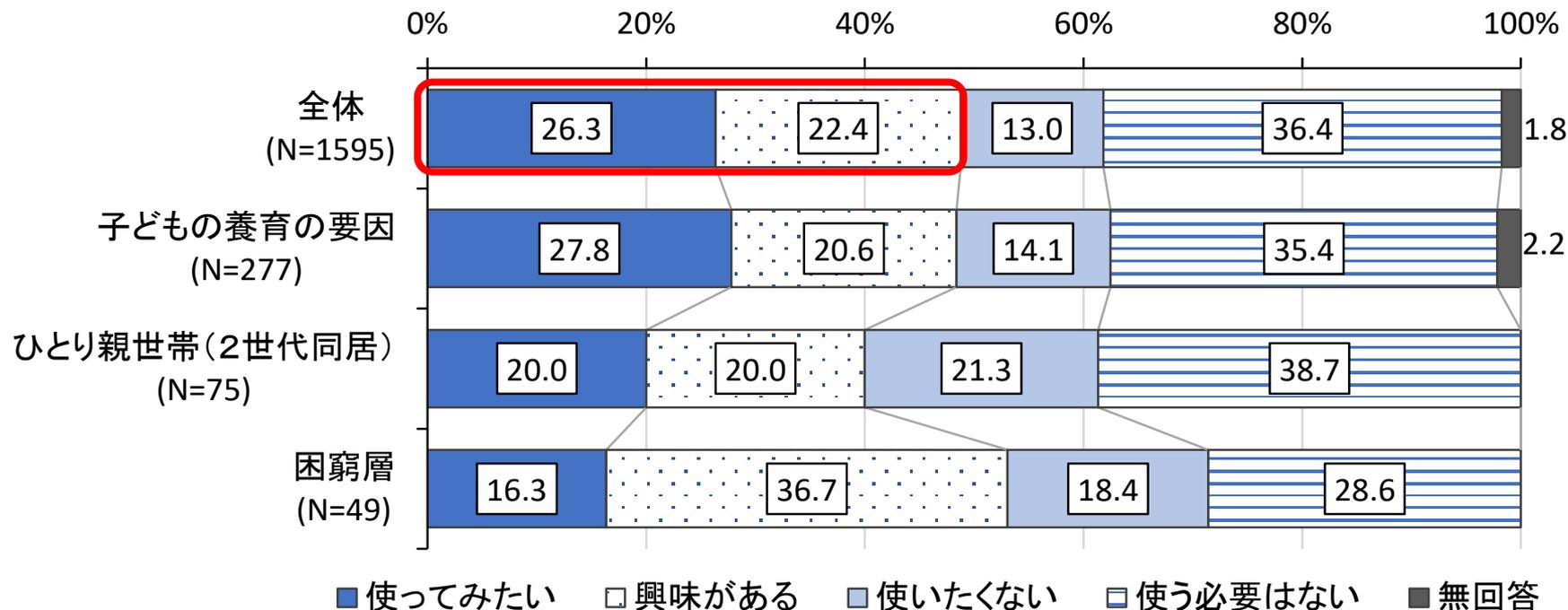


- 困窮層の小学5年生保護者の約2割が、経済的な理由で子どもが自宅で学習をすることができる場所がないと回答

3-7 学習環境と学習習慣



家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所のニーズ(小学5年生)

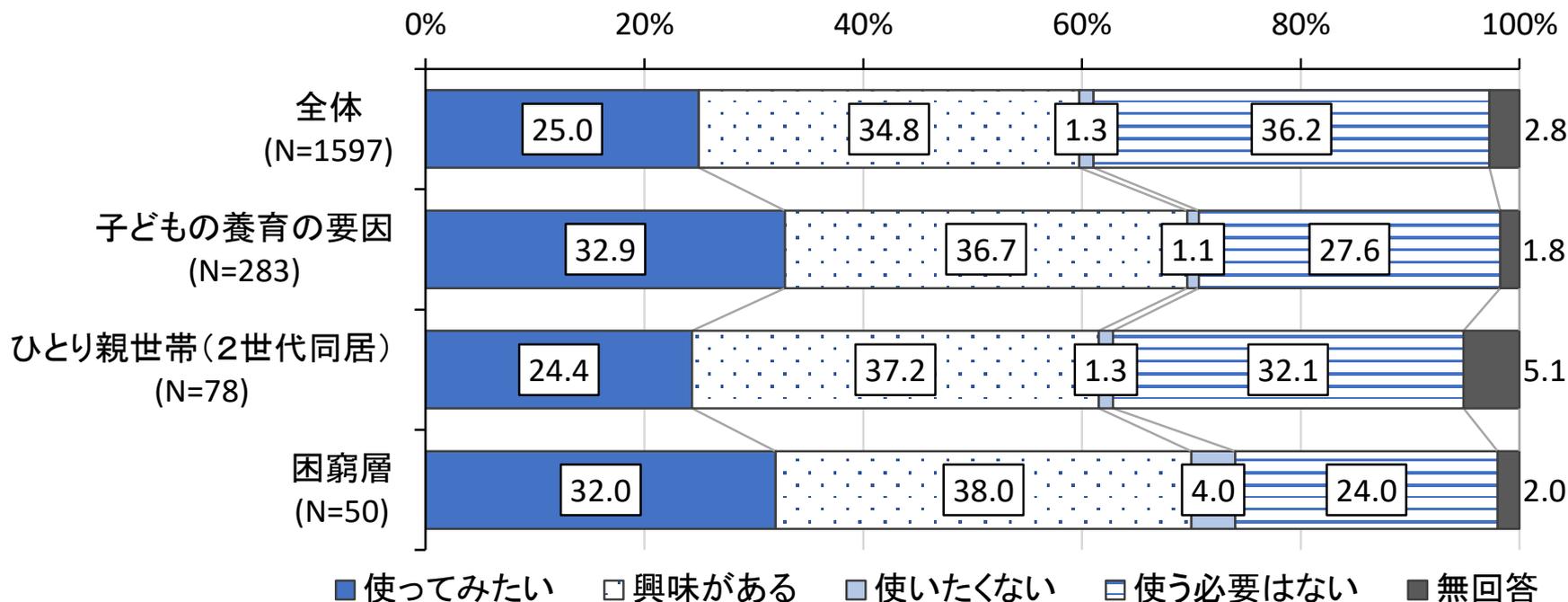


- 小学5年生の約半数が、家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所を「使ってみたい」「興味がある」と回答

3-7 学習環境と学習習慣



家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所のニーズ(小学5年生保護者)

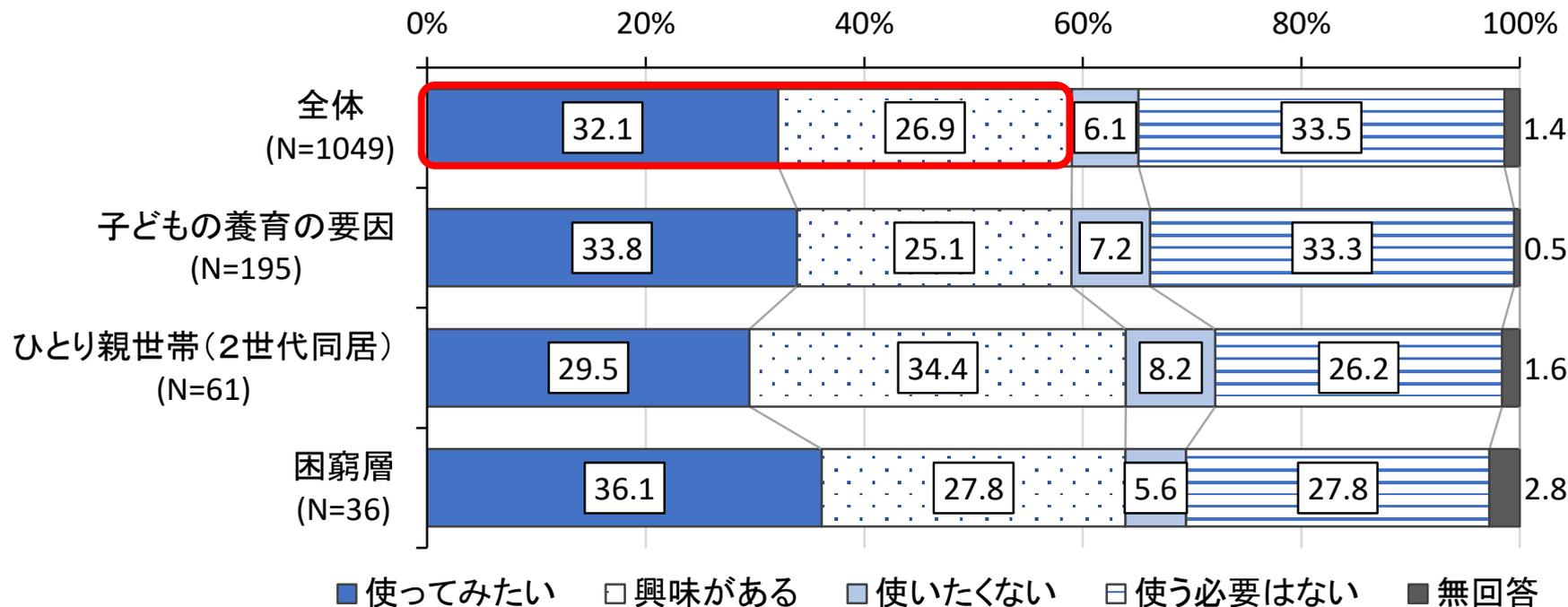


- 小学5年生の保護者の約6割が、家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所を「使ってみたい」「興味がある」と回答

3-7 学習環境と学習習慣



家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所のニーズ(中学2年生)

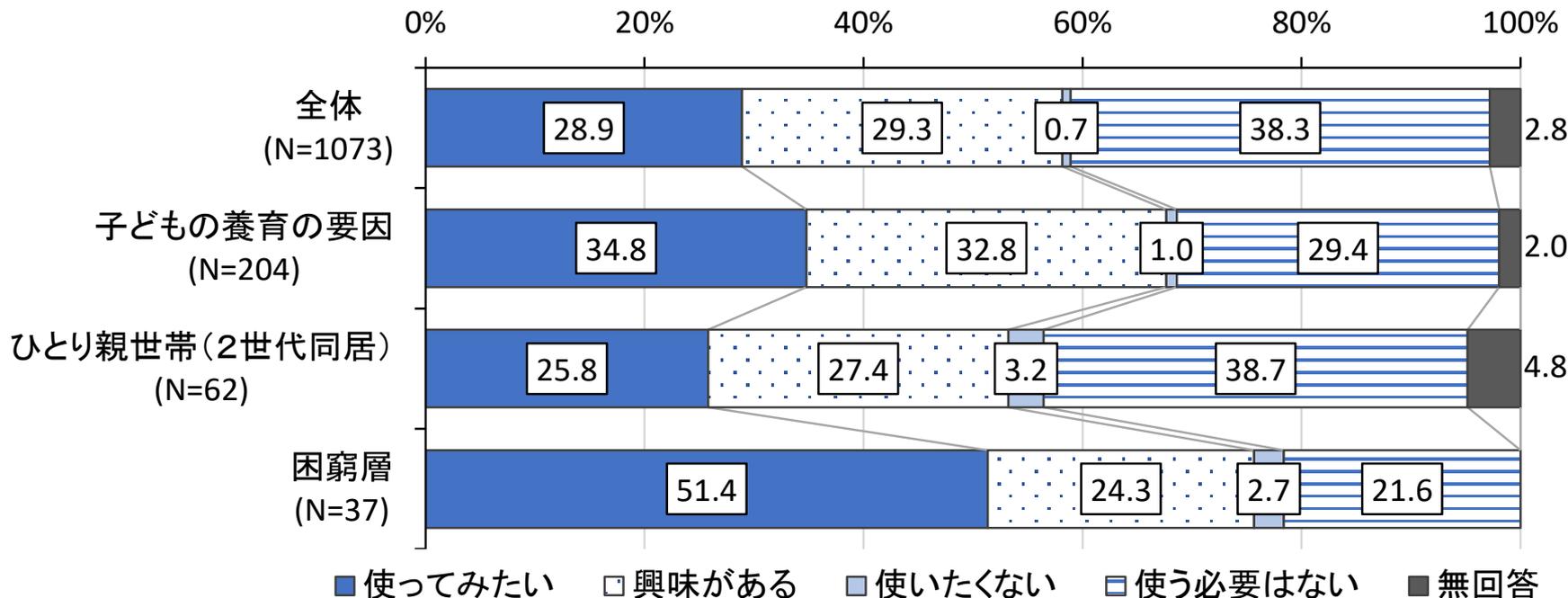


- 中学2年生の約6割が、家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所を「使ってみたい」「興味がある」と回答。小学生と比較してニーズが高い。

3-7 学習環境と学習習慣



家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所のニーズ(中学2年生保護者)

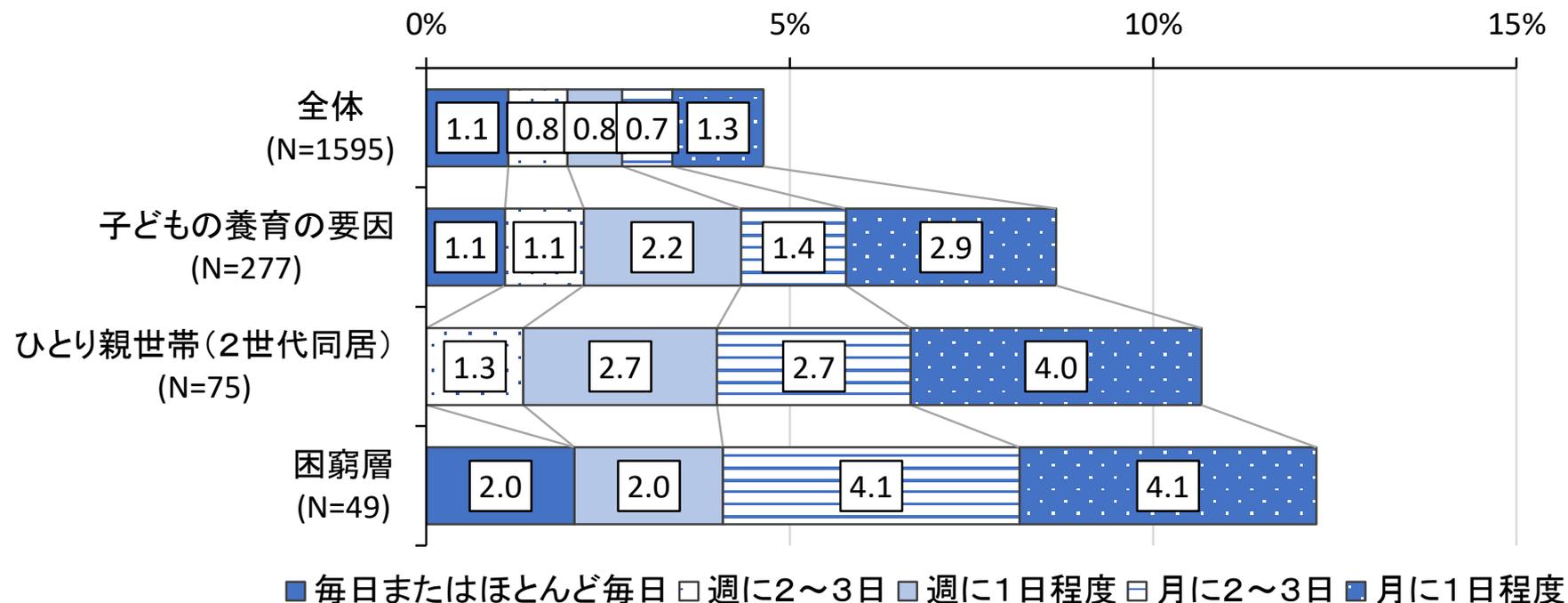


- 困窮層に該当する中学2年生の保護者の8割弱が、家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所を「使ってみたい」「興味がある」と回答。

3-8 子どもの学力・学校生活・不登校



学校に遅刻することがある割合（月1回以上） 小学5年生

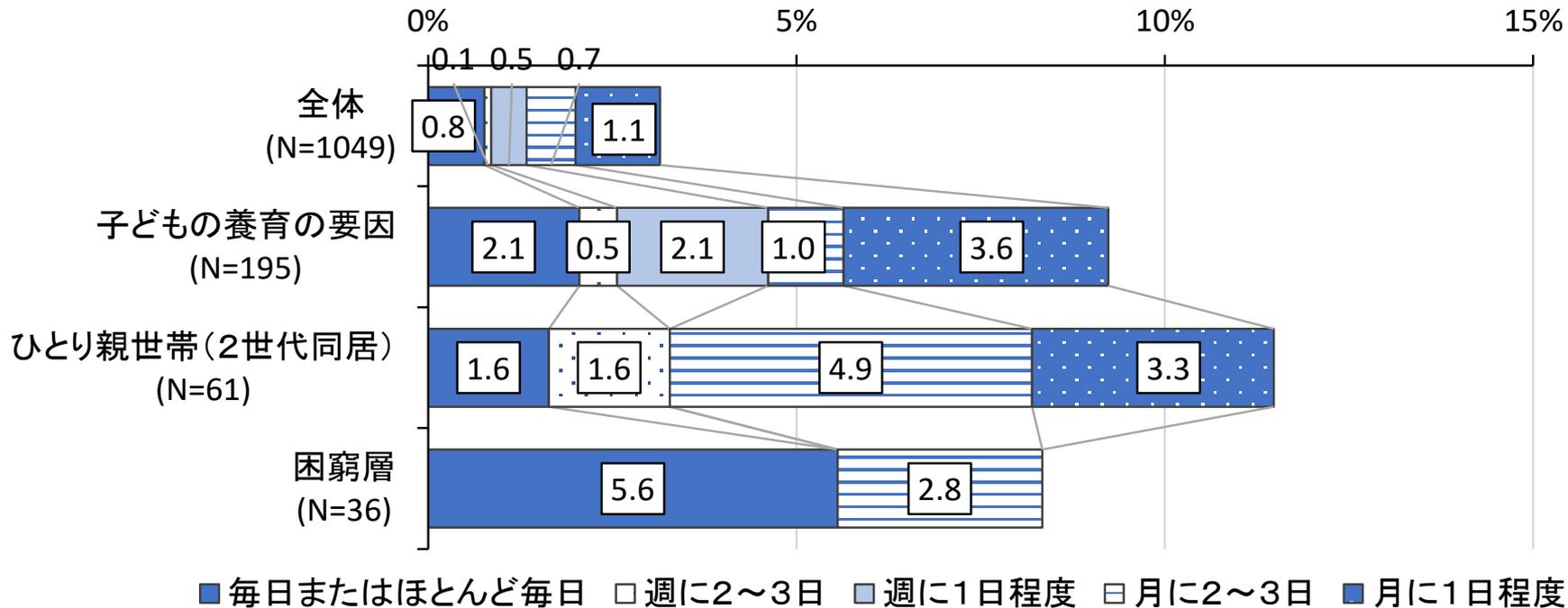


- 月1回以上学校に遅刻することがある小学5年生の割合は、困難を抱えると思われる子どもの方がやや高い傾向にある

3-8 子どもの学力・学校生活・不登校



学校に遅刻することがある割合（月1回以上） 中学2年生

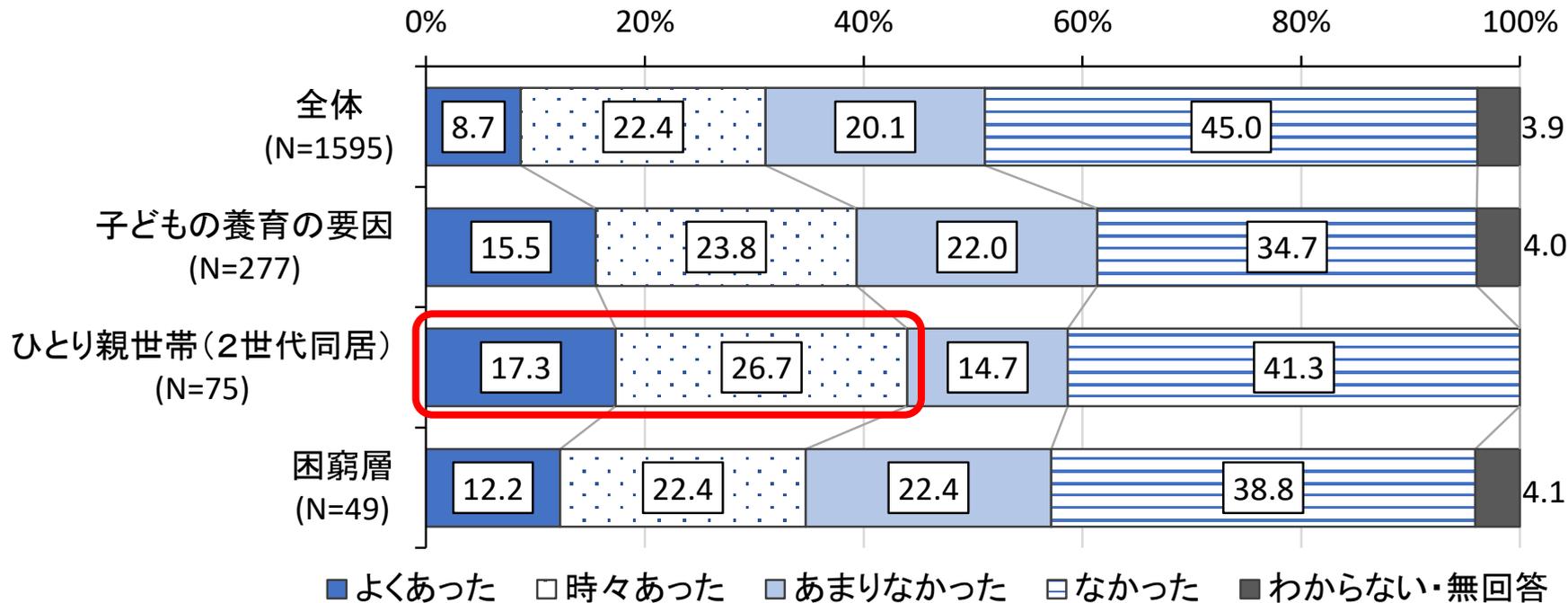


- 月1回以上学校に遅刻することがある中学2年生の割合は、全体と比較すると、困難を抱える子どもの方がやや高い傾向にある

3-8 子どもの学力・学校生活・不登校



学校に行きたくないと思ったこと 小学5年生

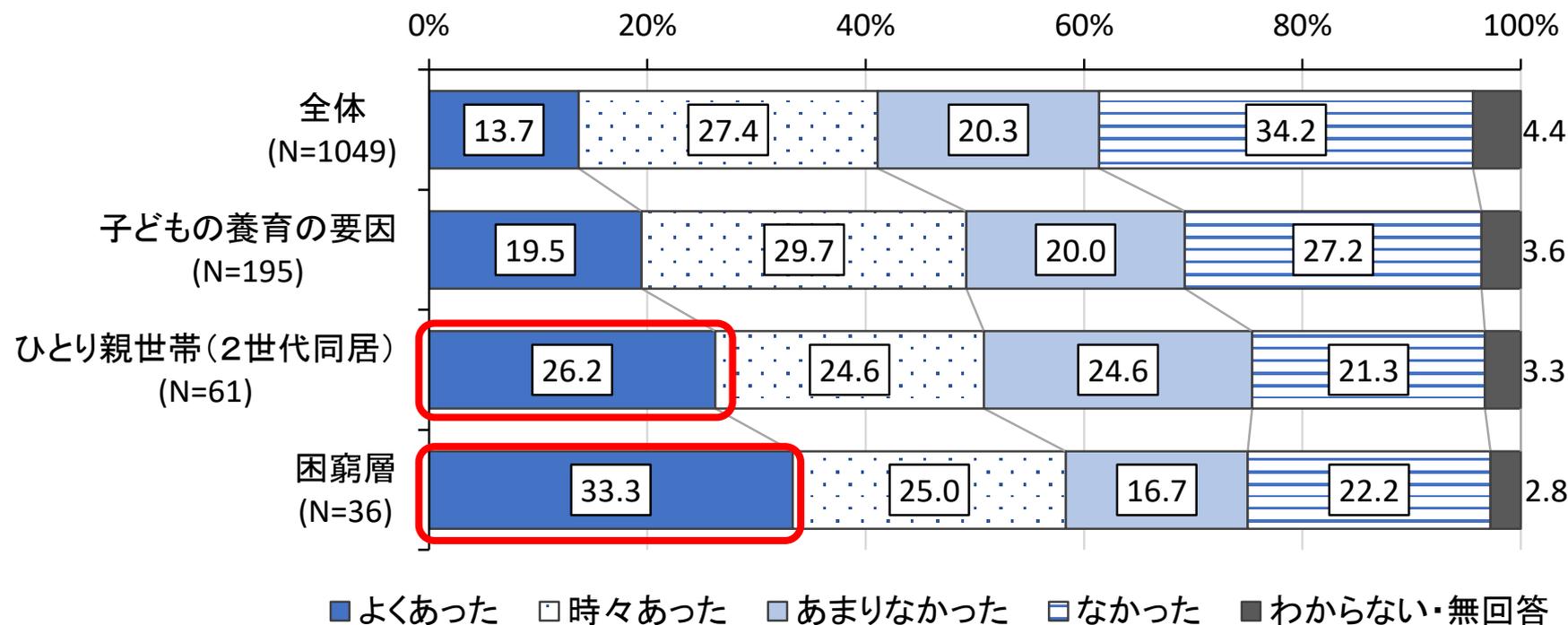


- ひとり親世帯(2世代同居)の小学5年生が学校に行きたくないと思ったことが「よくあった」「時々あった」と回答した割合は約4割

3-8 子どもの学力・学校生活・不登校



学校に行きたくないと思ったこと 中学2年生

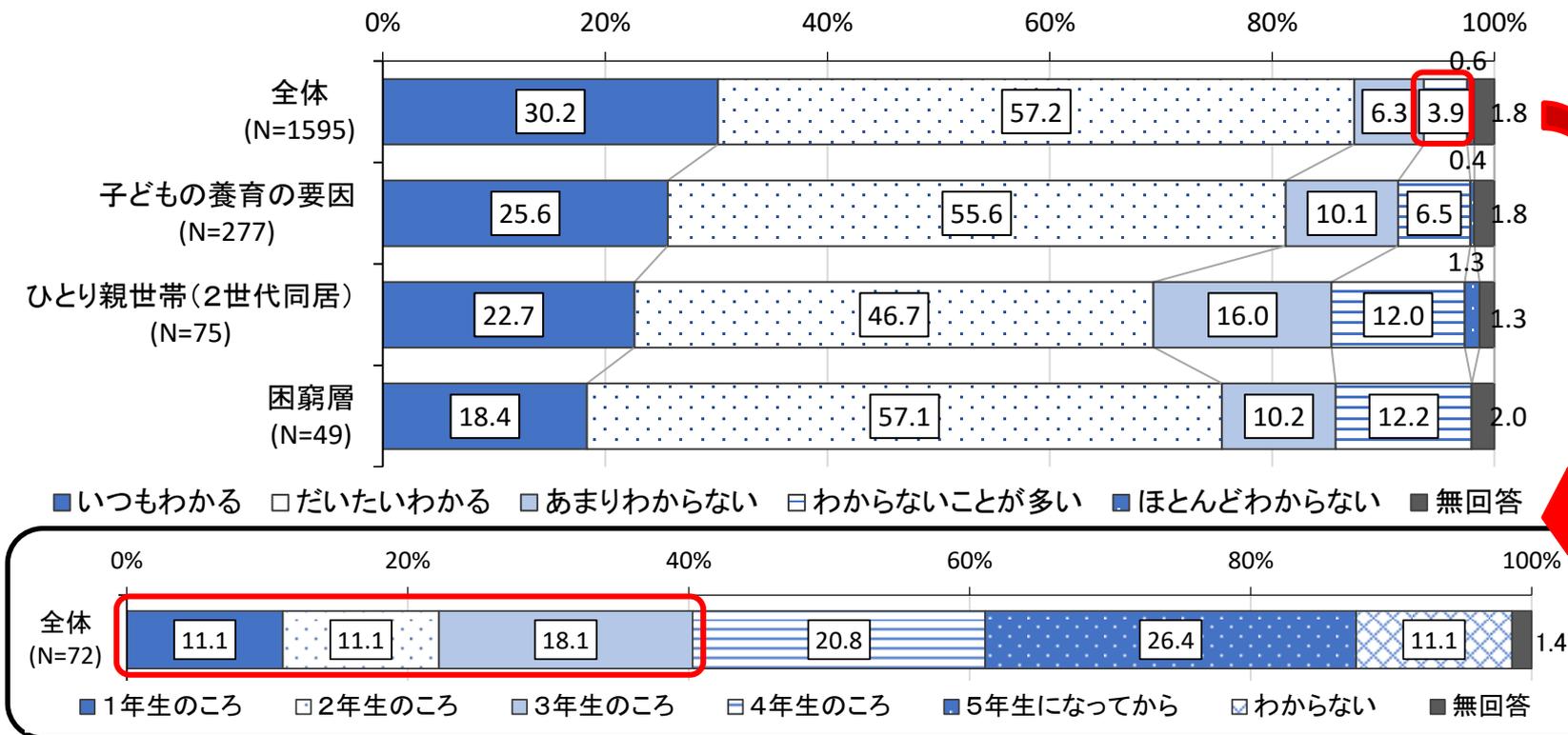


- 困窮層の中学2年生の3人に1人が、学校に行きたくないと思ったことが「よくあった」と回答

3-8 子どもの学力・学校生活・不登校



学校の授業がわからないことがあるか／その時期 小学5年生

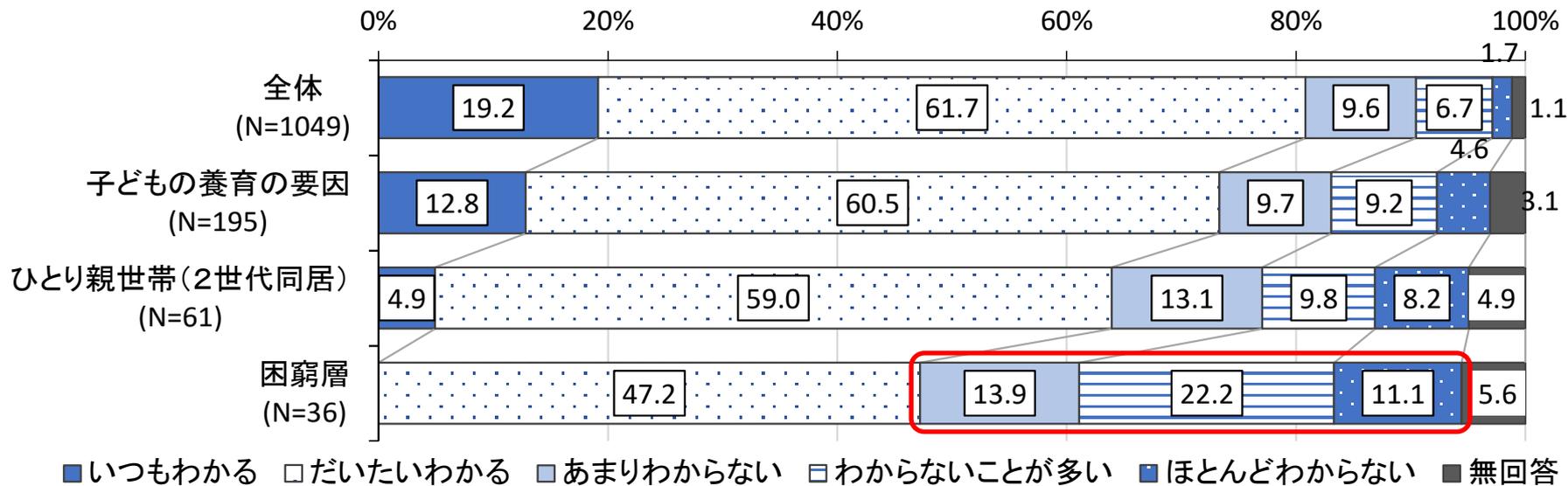


- 学校の授業が「ほとんどわからない」「わからないことが多い」と回答した小学5年生の4割が、小学校低学年で授業が分からなくなっている。

3-8 子どもの学力・学校生活・不登校



学校の授業がわからないことがあるか 中学2年生

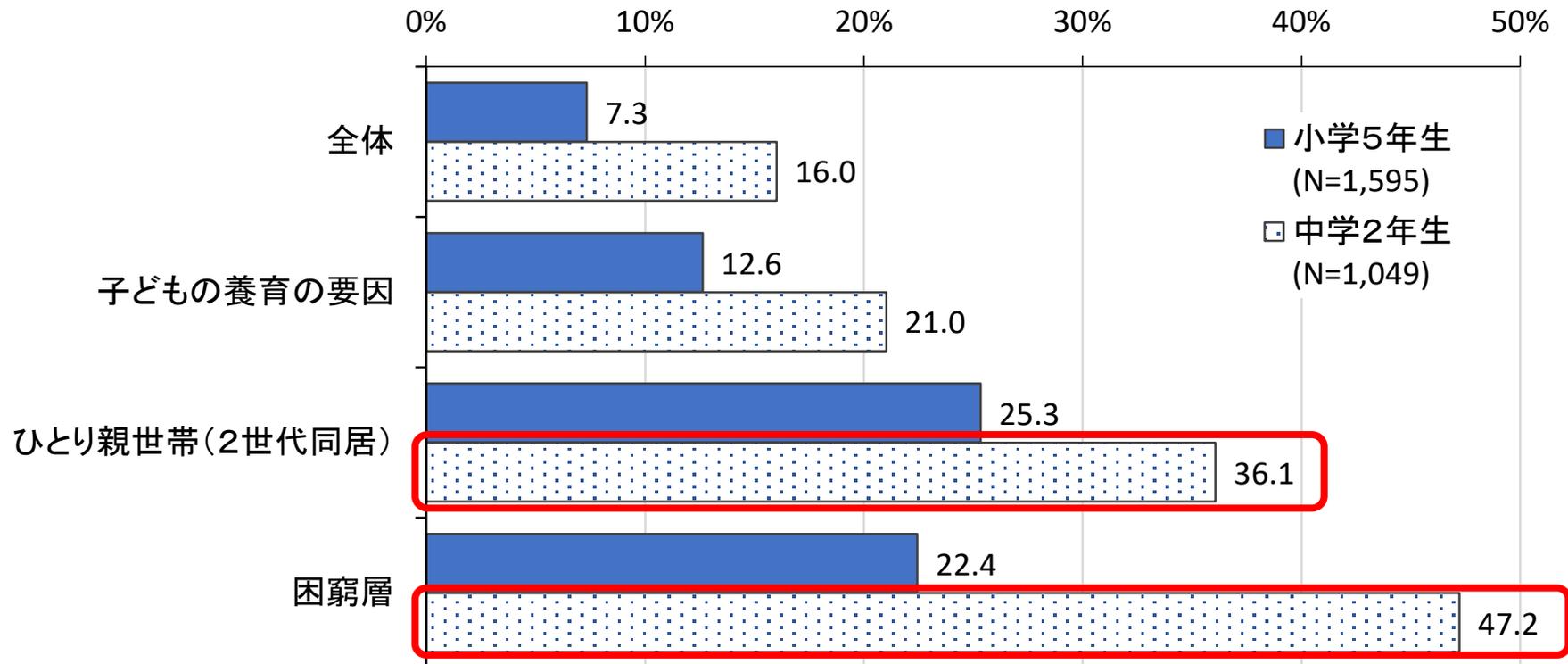


- 困窮層に該当する中学2年生の約半数が、学校の授業が「ほとんどわからない」「わからないことが多い」「あまりわからない」と回答

3-8 子どもの学力・学校生活・不登校



学校で困っていること — 勉強がよくわからない

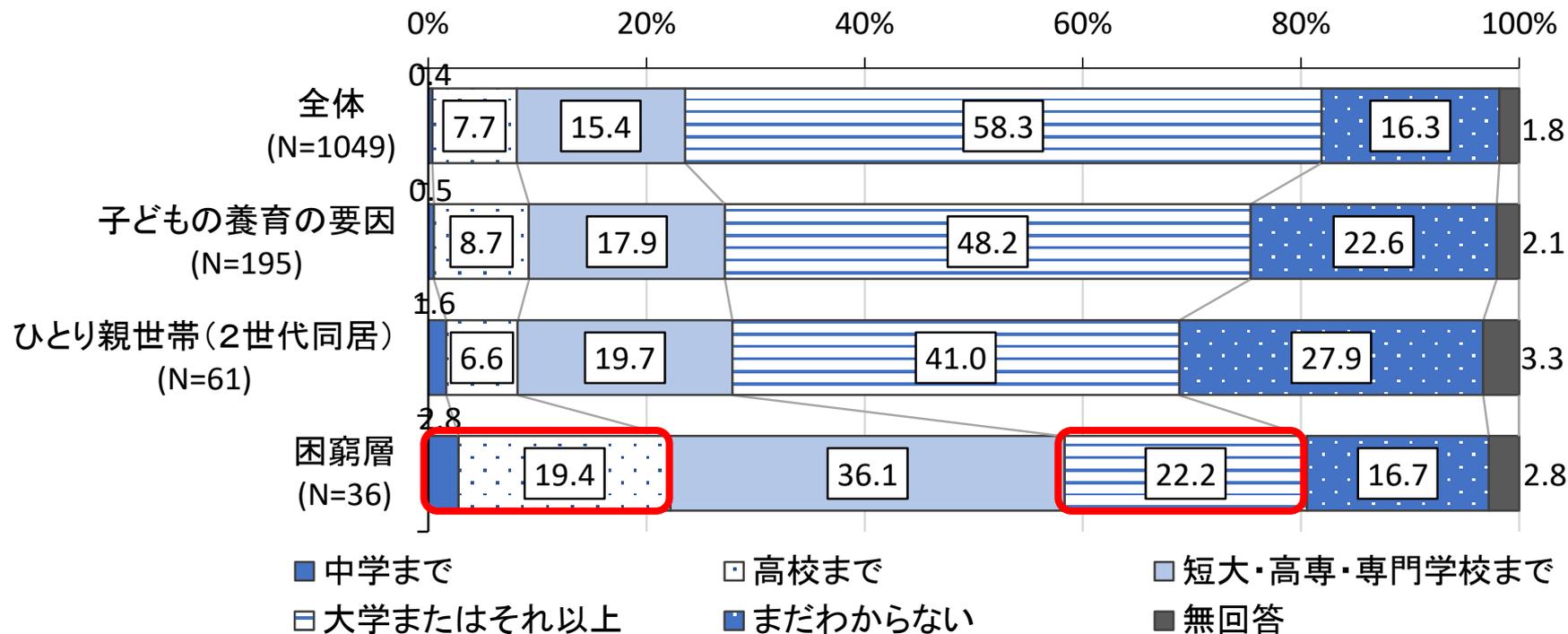


- 困窮層の中学2年生の2人に1人、ひとり親世帯(2世代同居)の中学2年生の3人に1人が、「勉強がよくわからない」ことが心配で困っていると回答

3-9 子どもの進路・将来展望



将来、どの段階まで進学したいか(中学2年生)

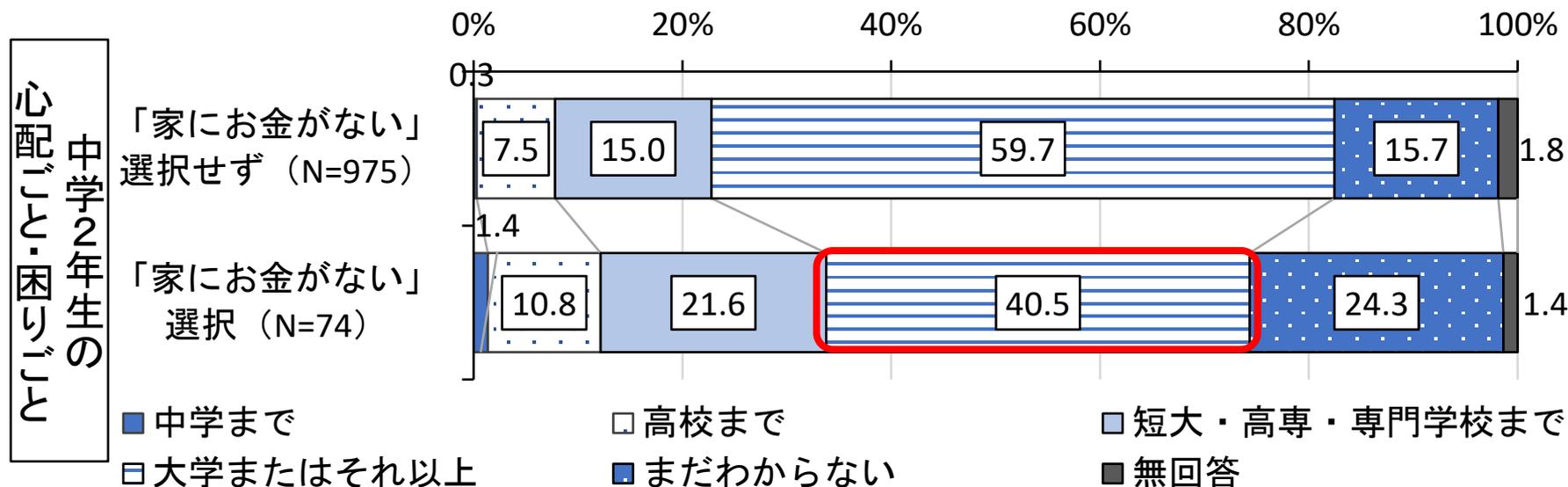


- 中学2年生が「大卒またはそれ以上」を希望する割合は全体が約6割であるのに対し、困窮層では約2割と低くなっている

3-9 子どもの進路・将来展望



「家にお金がない」悩みと、将来の進学希望(中学2年生)



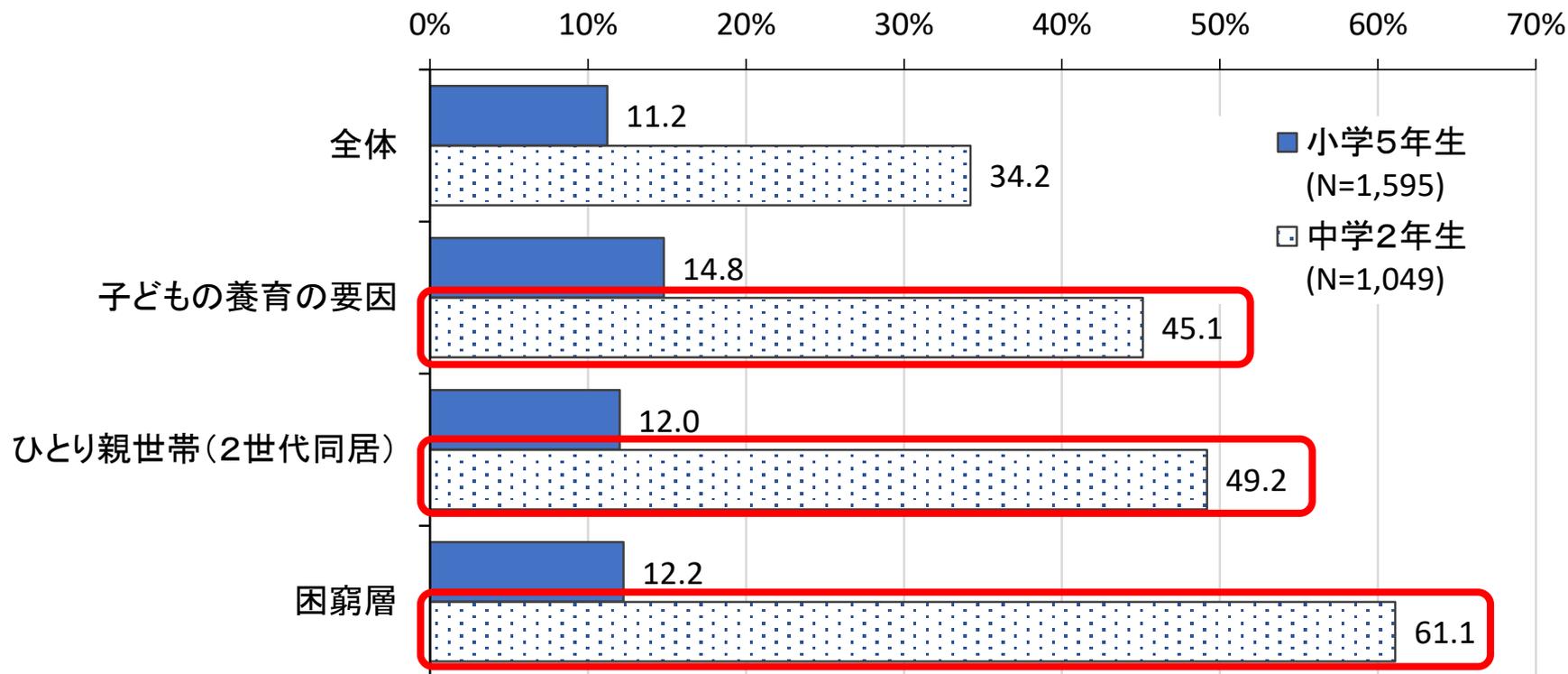
将来、どの段階まで進学したいか(中学2年生)

- 「家にお金がない」ことが悩みと回答した中学2年生は、「大学またはそれ以上」まで進学を希望する割合が低い

3-9 子どもの進路・将来展望



学校のことで困っていること — 将来(進路)のことが不安

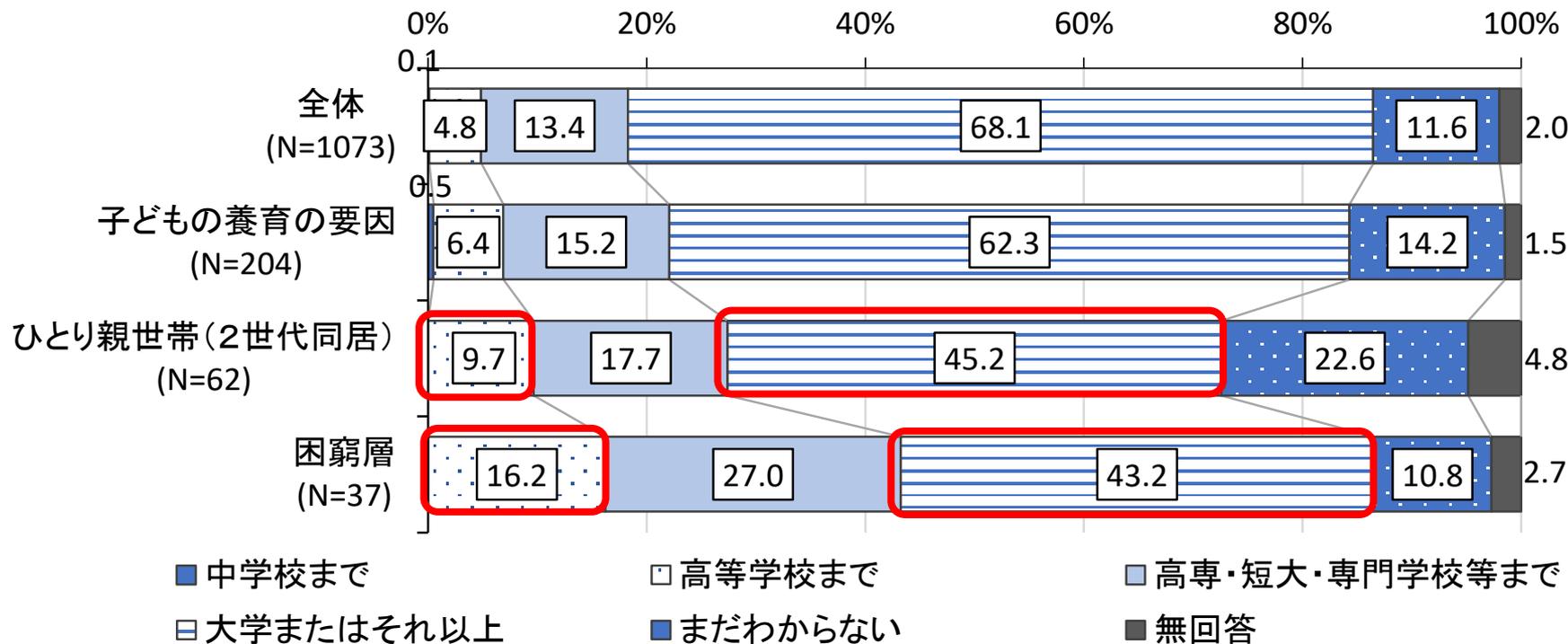


- 困窮層の中学2年生の6割、子どもの養育の要因層とひとり親世帯(2世代同居)の中学2年生の約半分が、将来(進路)のことが不安と回答

3-9 子どもの進路・将来展望



将来、どの段階まで教育を受けさせたいか(中学2年生保護者)

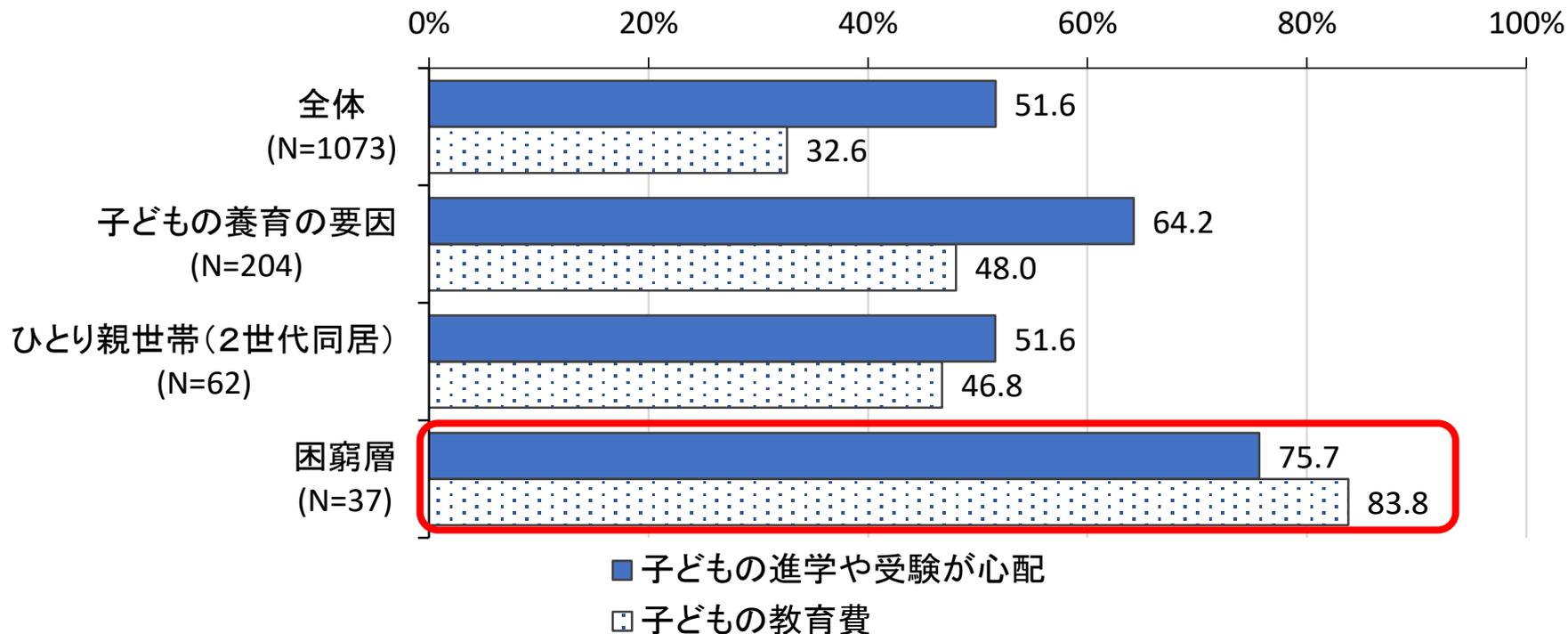


- 困窮層、ひとり親世帯(2世代同居)に該当する中学2年生の保護者は、「高等学校まで」教育を受けさせたいと回答した割合が高く、「大学またはそれ以上」と回答した割合が低い

3-9 子どもの進路・将来展望



子育てに関する悩みごと(中学2年生保護者)

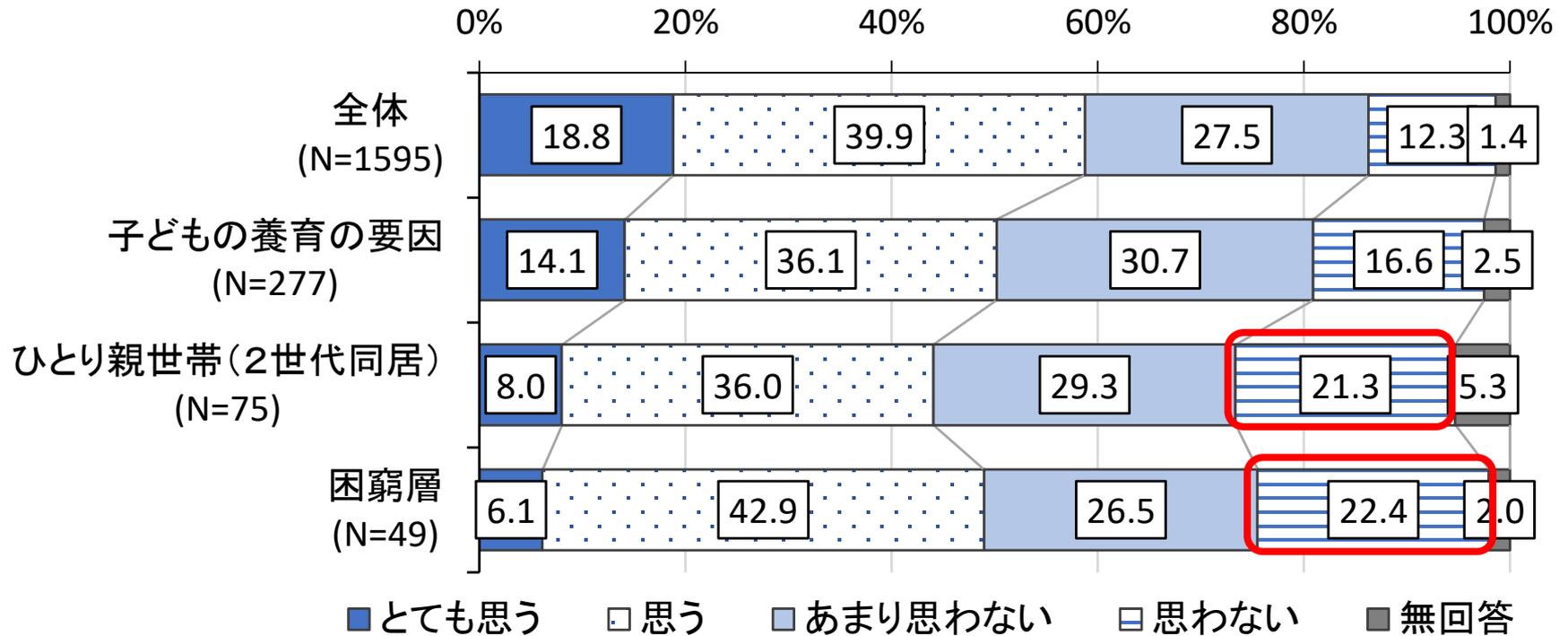


- 困窮層に該当する中学2年生の保護者の8割前後が子どもの教育費が悩みで、子どもの進学や受験が心配と回答

3-10 子どもの自己肯定感



自分のことが好きだ(小学5年生)

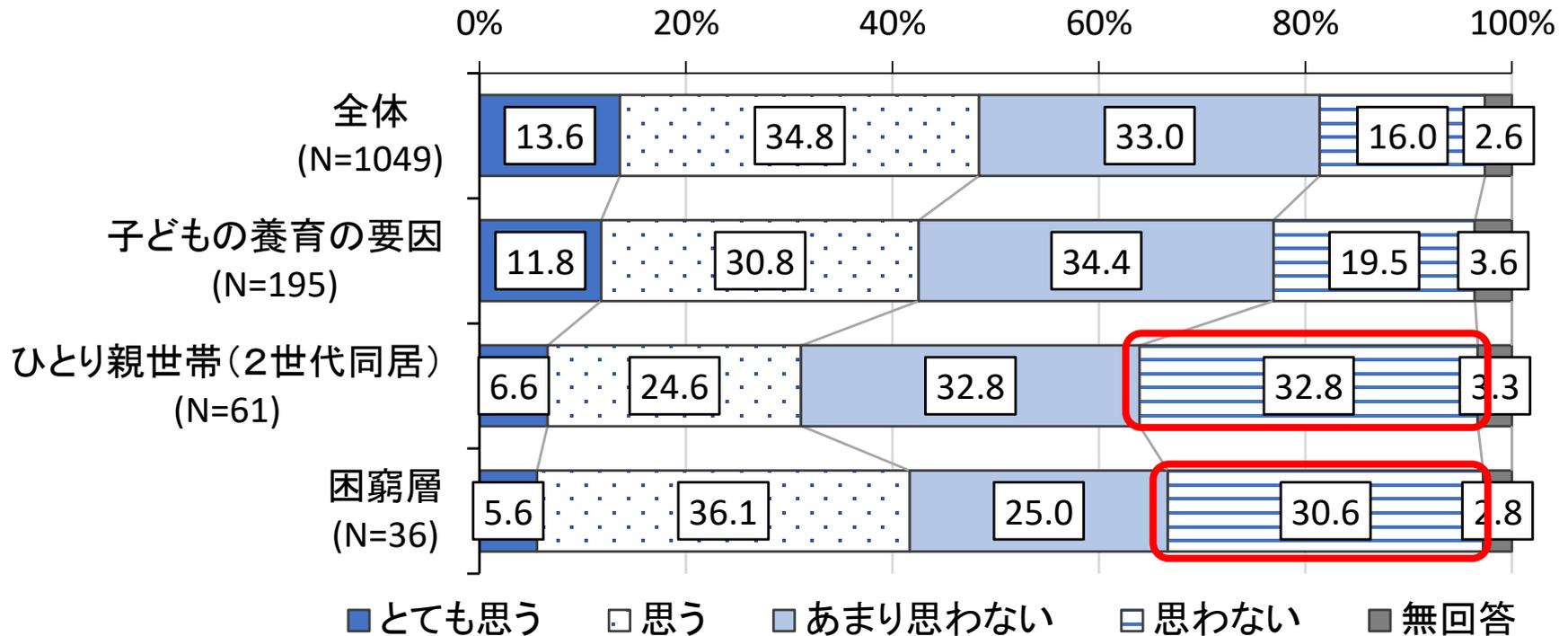


- ひとり親世帯(2世代同居)、困窮層の小学5年生が「自分のことが好きだ」とは「思わない」割合は約2割と全体と比較して高くなっている

3-10 子どもの自己肯定感



自分のことが好きだ(中学2年生)

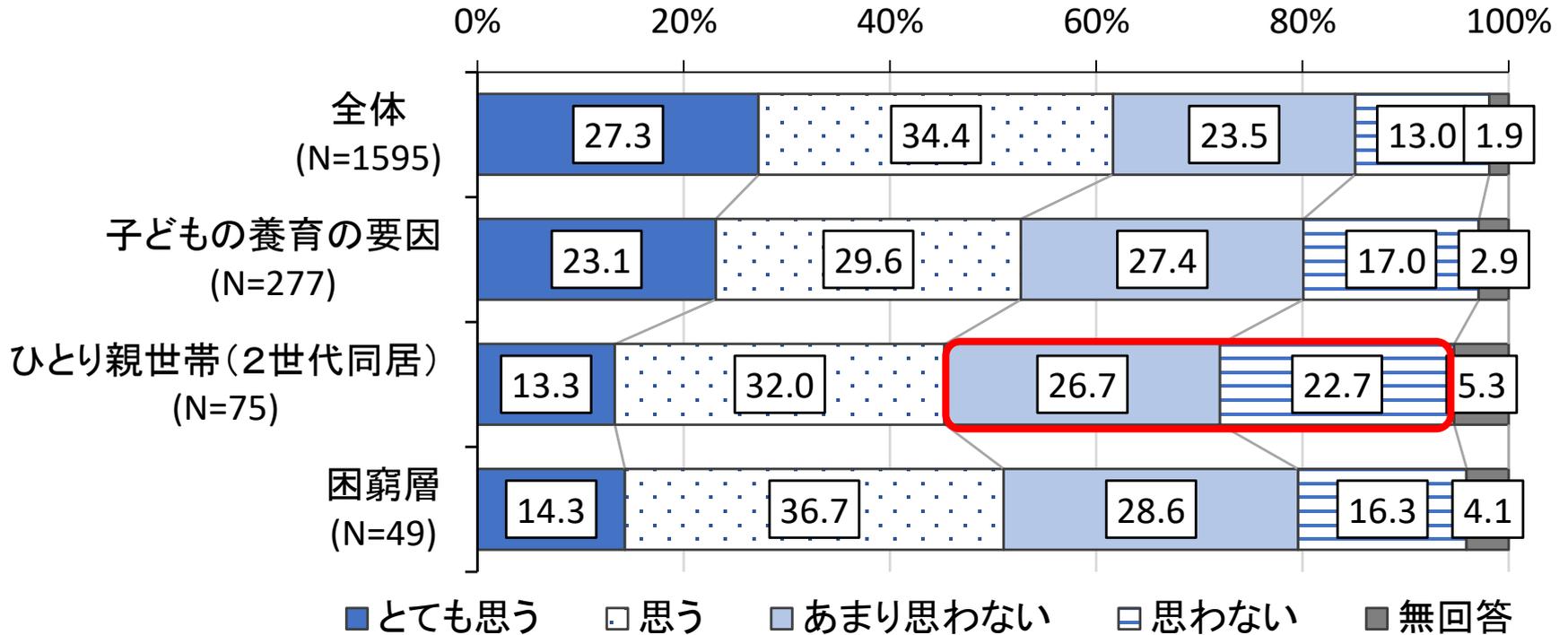


- ひとり親世帯(2世代同居)、困窮層の中学2年生が「自分のことが好きだ」とは「思わない」割合は約3割と全体と比較して高くなっている

3-10 子どもの自己肯定感



自分は価値のある人間だと思う(小学5年生)

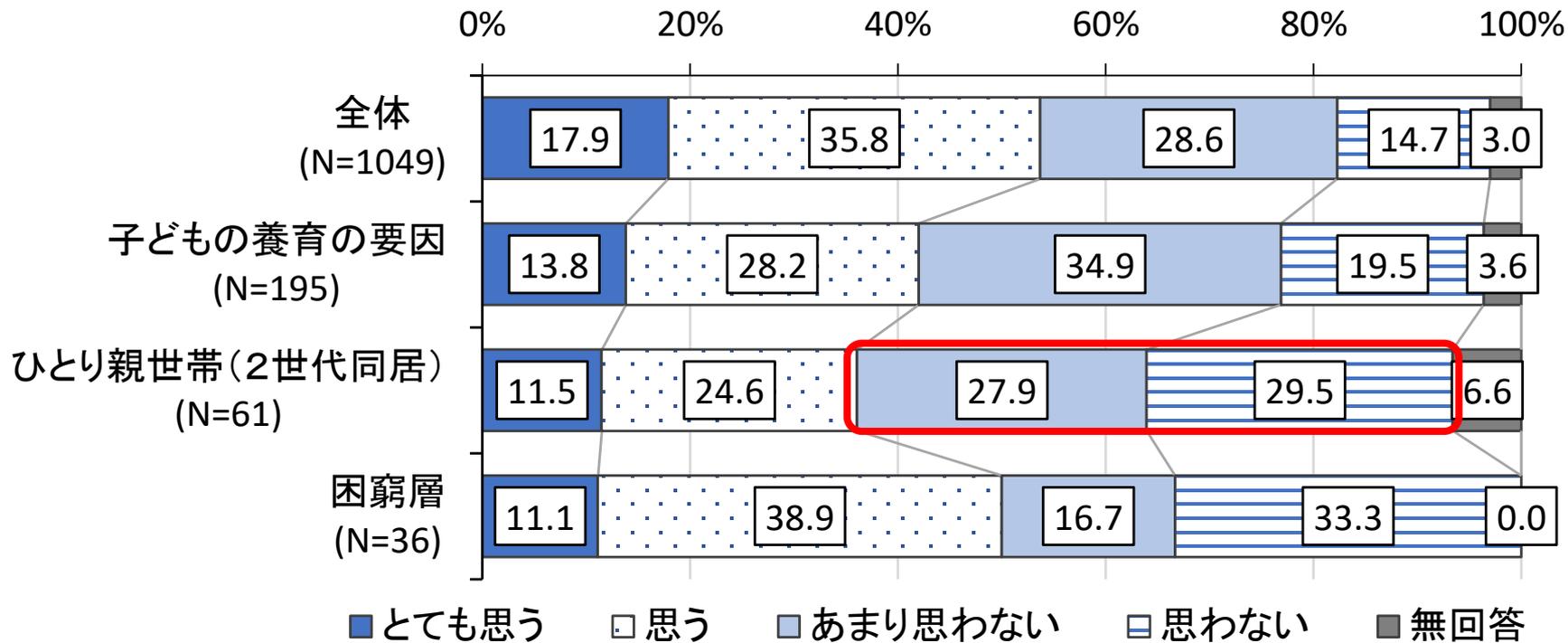


- ひとり親世帯(2世代同居)の小学5年生が「自分は価値のある人間だと思う」とは「思わない」「あまり思わない」割合は約5割

3-10 子どもの自己肯定感



自分は価値のある人間だと思う(中学2年生)



- ひとり親世帯(2世代同居)の中学2年生が「自分は価値のある人間だと思う」とは「思わない」「あまり思わない」割合は約6割